

ハイフレームの施工速度

採用した歩掛と現場での施工速度の関係は、完全な比例関係にならない場合が、多くある。歩掛は、100%その工種だけを施工した場合を想定しています。(当然、会計検査を念頭に)手待ちや測量等は歩掛(施工量)には反映されていません。現場では、段取りや材料移動等の必要な(雑)工種をやりながらの該当工種を施工します。

ハイフレーム系工法では歩掛としては下記を採用しています。(自社歩掛とみなされ、当社の信用失墜が無いように)

「積算基準」2. 土工 ②機械土工(土砂)

2.機械土工 4) 機械の施工歩掛 (4)バックホウの作業量 ①日当たり施工量

バックホウによる作業の日当たり施工量は、次表を標準とする

表②・10 日当たり施工量

作業の種類	名称	規格	土質名	単位	数量
ルーズな状態の積み込み	バックホウ 運転	ガ・クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	レキ質土・砂 ・砂質土・粘性土	m ³	310

施工速度

工期(短縮)に係る施工速度は、主工種の日当たり施工量に直接関連している。

ハイフレームの主工種は、充填材の施工(移動)です。展開工やネット工は充填工の”合間”で行うことができる工種です。

従って、ハイフレームの施工速度(=施工量)の設定時にその他工種のための施工量減を見込んでおけば実際の施工速度は計算できます。

この場合でも、基本となる充填材の日当たり施工量は、「積算基準」から採用する。

「積算基準」3. 共通工 ②4”裏込砕石工”38m³/日”{20m程度の現場内小運搬を含む}

ハイフレームと擁壁工・裏込めの現場条件の比較から、同施工量を80m³/日としても妥当性がある。

展開工やネット工、手待ち等で20%程度は施工量減が生じると考える。

$$\text{ハイフレーム充填材の作業量} = 80\text{m}^3/\text{日} \times 80\% = 64\text{m}^3/\text{日}$$

ハイフレームのセル高	式	面積/日	備考
10.0cm	64m ³ ÷ 0.100m =	640m ² /日	
12.5cm	64m ³ ÷ 0.125m =	510m ² /日	
15.0cm	64m ³ ÷ 0.150m =	430m ² /日	
17.5cm	64m ³ ÷ 0.175m =	370m ² /日	
20.0cm	64m ³ ÷ 0.200m =	320m ² /日	